

## 短報

## 和歌山県白浜町で採集されたカラスキセワタガイ (後鰓亜綱, 頭楯目, カノコキセワタガイ科) のまれにみる巨大個体

久保田 信\*・大塚 攻\*\*・濱谷 巖\*\*\*

Shin KUBOTA, Susumu OHTSUKA and Iwao HAMATANI: A rare giant specimen of *Philinopsis cyanea* (MARTENS) (Opisthobranchia, Cephalaspidea, Aglajidae) from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

1996年1月6日, 田辺湾の南側の湾口部付近の海岸で, 非常に大型のカラスキセワタガイ *Philinopsis cyanea* (MARTENS) の1個体がスキндаイビングによって採集された。採集場所は, 京都大学瀬戸臨海実験所の北側の浜の潮下帯で, 水深2mの転石上である。この個体は, 実験室で写真撮影の後(図1), 硫酸マグネシウムで麻酔しホルマリンで固定し保存した。

生体は比較的良好に伸長した場合, 体長が約10cmの円筒形。体の地色は濃い黒紫色。頭楯の背面には橙褐色の不連続線が2本縦走り, 同色の不連続線が左右の側足の縁に沿って1本ずつある。後者の不連続線は前者より太い。さらに, 同色の縁取りが, 頭楯や尾にも見られる。また, 側足や頭楯を含めて体の表面には黄灰色で不定形の最大長数mm程度の斑紋が散在する。頭楯, 側足, 尾の周縁には青い蛍光色を呈する部分がある。

上記の特徴は, 濱谷(1992, 1994)による記載および図や図版(写真)と一致した。しかし, 本個体の体長は10cmにも達し, これまでの記録(30mmあるいは50mm)の数倍のまれにみる巨大個体である。

本種は, その後, 白浜町番所崎周辺海域からは採集されていない。

なお, COLIN and ARNESON (1997) は, フィリピン, セブ島産の斑紋がない個体を本種として写真で示している。

## 引用文献

COLIN, P. L. and ARNESON, C. 1997: in *Tropical Pacific Invertebrates*, p. 176. Coral Reef Press, USA.

濱谷 巖. 1992: 後鰓亜綱. in 西村三郎 編著, 日本

海岸動物図鑑 [I], p. 269. 保育社, 大阪.

———. 1994: ウミウシ類. in 奥谷喬司 編著, 海辺の生きもの(山溪フィールドボックス8), p. 158. 山と溪谷社, 東京.



図1 和歌山県白浜産カラスキセワタガイの巨大個体(背面図)。

Fig. 1. A giant specimen of *Philinopsis cyanea* (MARTENS) from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan (dorsal view).

\* 京都大学瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海459)

\*\* 広島大学水産実験所 (〒725-0024 広島県竹原市港町5-8-1)

\*\*\* 〒596-0045 大阪府岸和田市別所町2-18-24

\* Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

\*\* Fisheries Laboratory, Hiroshima University, 5-8-1 Minato-machi, Takehara, Hiroshima 725-0024, Japan

\*\*\* 2-18-24 Bessho-cho, Kishiwada, Osaka 596-0045, Japan